

「大人の教会学校」2018年8月のテキスト

2018年度広島教区のテーマ「福音を伝える使命～預言職・宣教」

預言者とは？

『預言者という語の由来』

ヘブライ語「ナビ」（複数はネビイム）、ギリシャ語のプロフェテス（複数はプロフェタイ）についていろいろ研究されましたが、単に語源的だけでなく内容に関しても、さまざまな意見があります。

語源的には、この語はアッカド語のナブ、すなわち「(神に) 呼ばれた」から来ているのでしょうか・・・。

他の古代民族にあつては、預言者とは王ないし神殿に仕える一つの制度（顧問や役人）でした。

イスラエルにあつては、預言は単なる一つの制度ではなく、一つのたまものと見なされていました。

イスラエルは王を選挙することができ、祭司は彼らの後継者たちを叙任することができました。これに反し、だれも預言者を選挙することができず、ある預言者が受けたたまものを他の人に伝えることもできなかつたのです。マラキと洗礼者ヨハネの間の中絶は痛切に感じられます。いかに望んだとしても、選民は自分たちに一人の預言者も与えることができず、他の民族のように「預言者の学校」を開くこともできませんでした。

比喩的な使い方、この「預言者」という語は、偉大な精神力の持ち主、たとえばガンジーやM・Lキング、あるいは修道会の創立者たちを指すこともあります。この人々の使命は旧約聖書の預言者の使命と同じではありません。

(本書で) 預言者というときは、いつも聖書のあかしに基づいて、神からの啓示の光を受け、これを伝える使命をもった人びとを指します。すなわち、主のみ声であった人びと、主のことばを声高く告げ知らせた人びとです。

「偉大な預言者がわれわれの間にあらわれた」(ルカ 7・16)

「主よ、あなたはほんとうに預言者です」(ヨハネ 4・19)

「民衆がイエスを預言者だと思っていた」(マタイ 21・46、マルコ 11・32、ルカ 20・6)

「ナザレのイエスのことです。このかたは神とすべての民の前で行いにも、言葉にも力のある預言者でした」(ルカ 24・19)

主イエスは、人びとから預言者だと思われていました。

預言者とは・・・。

(「預言者たちの霊性」 マグダレナ・E・トーレス＝アルピ サンパウロ)